

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3473500688		
法人名	有限会社 トリオ		
事業所名	グループホームきららの里		
所在地 (電話番号)	広島県山県郡北広島町本地1931 (電 話) 0826-72-7324		
評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成19年11月30日	評価確定日	平成20年1月8日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	9 人	
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造平屋 地上1階建1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	400 円	おやつ 200 円
	又は1日 1,400円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	8 人	男性	2 人	女性	6 人	
要介護1	2 人	要介護2	4 人			
要介護3	2 人	要介護4	0 人			
要介護5	0 人	要支援2	0 人			
年齢	平均	— 歳	最低	— 歳	最高	— 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	益田病院, 千代田中央病院, 有田歯科, 特別養護老人ホーム正寿園
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームきららの里は、運営者の高齢者ケアに対する熱い思いと、管理者がこれまで培ってきた介護経験を活かしたケアの提供が行われているホームです。
自然の懷に抱かれた景色を背景に、昔ながらの住民同士のあたたかいふれあいや交流も活発で、スーパーや医療機関など、利用者の日々の暮らしをサポートする環境に恵まれています。この恵まれた環境の中で、日々の外出の機会に地域の人との交流を深めるなど、地域の一員であることや地域で生活していることを利用者が感じられるよう取り組まれています。
また、職員一人ひとりの状況や希望に応じた段階的な学びの場が提供されており、同じテーマの研修に2人以上が参加し、異なる視点による気づきを職員間で共有するなど、研修で得た知識・技術が、職員それぞれのケアのスキルアップにつながっており、運営者・管理者・職員が理念を共有しながら、「きららの里」の持ち味を活かした、個別ケアに熱心に取り組まれています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 開設1年を迎え、目標とするケアを再確認し、ケアサービスの中で徹底するため、理念の見直しを全職員で行われています。この取り組みをはじめとして、職員と管理者の意見交換が活発に行われており、ホームのめざす方向性や思いの共有が図られています。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が、日々のケアを振り返りながら課題を整理し、月ごとに目標を定めるなど、サービスの質向上に向けて取り組まれています。また、評価結果を家族や行政、運営推進委員に報告するとともに、ミーティング、勉強会を開催し、様々な視点からの意見を取り入れ、課題について検討を行うなど、評価の過程をサービスの質向上につなげられています。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議が、家族や地域団体の関係者等、多数の参加を得て、2か月ごとに開催されており、様々な立場から積極的に意見交換が行われています。会議では、地域の情報や風習に詳しい参加者からの意見が、地域に密着したホームづくりをめざすきららの里のサービス向上や運営の後押しとなっています。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会はありませんが、食事会を開催するなど、家族が意見を言いやすい雰囲気づくり、機会づくりに取り組まれています。また、家族の要望のもとに、外出の頻度や行き先等の検討を行うなど、家族の意見がサービスの質向上に反映できるよう努められています。また、家族も地域住民の一人であることを認識した取り組みが行われており、地域とホームのパイプ役としての役割を果たしてもらおうなど、家族と一緒にホーム運営やケアが行われています。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 夏祭り、とんど、運動会等の地域行事や町内会に参加されている他、ホーム行事に地域の人の参加を呼びかけるなど、積極的に地域との交流に努められており、散歩や外出時には、なじみの関係となった地域の人が、利用者の見守り役として協力されています。今後は、ホームの持つ専門性を地域へ還元していくことを検討されていますので、地域の一員として、地域の中の活動や役割を担っていかれることを期待します。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設1年を迎え、利用者により添ったケアをさらに深めるために、理念の再確認が行われており、「きららの里」の持ち味を反映した具体的に分かりやすい理念となっています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員の話し合いにより、理念が作成されており、朝礼で唱和を行いながら、理念の周知徹底に努められています。また、職員一人ひとりが理念をもとに、1か月ごとの目標を定めるなど、自ら提供するサービスの振り返りを行いながら、理念に沿った個別ケアが実践できるよう取り組まれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り、とんど、運動会等の地域行事や町内会に参加されている他、ホーム行事に地域の人の参加を呼びかけるなど、積極的に地域との交流に努められており、散歩や外出時には、なじみの関係となった地域の人が、利用者の見守り役として協力されています。今後は、ホームの持つ専門性を地域へ還元していくことを検討されていますので、地域の一員として、地域の中の活動や役割を担っていかれることを期待します。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が、日々のケアを振り返りながら課題を整理し、月ごとに目標を定めるなど、サービスの質向上に向けて取り組まれています。また、評価結果を家族や行政、運営推進委員に報告するとともに、ミーティング、勉強会を開催し、様々な視点からの意見を取り入れ、課題について検討を行うなど、評価の過程をサービスの質向上につなげられています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が、家族、町会議員、地区社協、部落会、老人クラブ、女性会、行政等、多数の参加を得て、2か月ごとに開催されており、様々な立場から積極的に意見交換が行われています。会議では、地域の情報や風習に詳しい参加者からの意見が、地域に密着したホームづくりをめざすきららの里のサービス向上や運営の後押しとなっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム行事の案内や声かけを積極的に行い、交流を深め、日常的に相談できる関係づくりが行われています。また、町担当者へホームの実情等について報告するとともに、困難事例に対するアドバイスをもらうなど、ホーム運営の力強い味方となっており、協働してサービスの質向上に取り組まれています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「きららの里だより」が毎月発行されており、利用者の表情が伝わるよう、写真を掲載するなどの工夫を行いながら、利用者の暮らしぶりや行事の様子が報告されています。また、利用者と家族と一緒に夕食をとる機会を設けるなど、離れて生活する利用者と家族が、お互いを身近に感じながら、安心して生活できるよう配慮されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はありませんが、食事会を開催するなど、家族が意見を言いやすい雰囲気づくり、機会づくりに取り組まれています。また、家族の要望をもとに、外出の頻度や行き先等の検討を行うなど、家族の意見がサービスの質向上に反映できるよう努められています。また、家族も地域住民の一人であることを認識した取り組みが行われており、地域とホームのパイプ役としての役割を果たしてもらうなど、家族と一緒にホーム運営やケアが行われています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員一人ひとりの思いを把握するため、職員間の意見交換、情報共有に努めながら、働きやすい職場づくりに取り組まれており、現在までに職員の異動はありません。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの状況や希望に応じた段階的な学びの場が提供できるよう配慮されており、積極的に外部研修に参加されています。また、同じテーマの研修に2人以上が参加し、異なる視点による気づきを職員間で共有されており、研修で得た知識・技術が、職員それぞれのケアのスキルアップにつながっています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワークづくりの必要性を認識されており、研修や地域ケア会議等の機会を通して、他事業所の職員との交流を深めながら、情報交換・共有に積極的に取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用を繰り返し行いながら、利用者・家族がホームになじみ、納得したうえでサービス開始が行えるよう配慮されています。また、利用前のアセスメントだけでなく、日々の暮らしからも、利用者の生活歴を把握するよう努められており、これまでの生活と切り離されることなく、安心して暮らせるよう取り組まれています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	工作や手芸、畑仕事など、利用者の「できること」が発揮できるよう場面づくりに努められており、利用者が生活の中で自身の存在意義や役割を実感し、達成感を味わえるよう取り組まれており、職員は利用者の喜びに共感しながら、お互いに支え合う関係づくりに努められています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員に、個別ケアの理念が浸透し、日々のケアの中で実践されており、ホームの予定や職員の都合を優先することなく、利用者一人ひとりの状況やその時々思いを汲み取りながら、その人らしい暮らしの支援に取り組まれています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がその人らしく、より良く暮らすために、家族と一緒に考える姿勢が大切にされており、利用者・家族の意向の把握に努めるとともに、日常生活における利用者の状態変化や気づきを詳細に記録し、職員間で情報伝達、共有を徹底しながら、介護計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回定期的に見直しが行われています。職員一人ひとりが自ら提供するサービスを振り返り、それらを記録として残すことが習慣化しており、日々のケアによる気づきが計画に反映できるよう取り組まれています。また、記録することで、利用者一人ひとりのケアのあり方について職員間で意識を統一することにもつながっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	少人数ケアというグループホームの特徴を活かし、ホームの決まり事などの枠にとらわれることなく、利用者一人ひとりの思いに応じたサービスが提供できるよう、職員間の情報交換、共有を徹底しながら、柔軟な支援に取り組まれています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を深めながら、定期健診の実施や緊急時・夜間の体制が整えられており、利用者の状態に応じた適切な医療の提供が継続できるよう取り組まれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、利用者・家族の思いや意向の把握に努められており、医師や家族と連携を図りながらホームが対応し得る最大のケアが提供できるよう取り組まれています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者がこれまでの生活の中で培ってきた知識や経験を認め、尊敬する姿勢を大切にされており、日常の関わり方や声かけについて振り返りながら、利用者の誇りを傷つけたり、馴れ合いになることのないよう意識して、ケアをされています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の先入観で生活づくりを行うのではなく、利用前のアセスメントや日々の生活の中で、利用者の習慣や生活歴の把握に努められており、利用者一人ひとりの思いやペースに沿った暮らしが送れるよう取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、後片付けなど、利用者の状態に配慮しながら、利用者のできることやしたいという思いが発揮できるような場面づくりに取り組まれています。また、ホームの菜園で収穫された食材を調理するなど、利用者が食事に楽しみを感じられるよう工夫されており、職員と利用者が一緒に和やかな雰囲気の中で食事の時間を過ごされています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や生活習慣を大切にされており、希望の時間帯に毎日入浴することができます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の思いや気持ちの変化を汲みとり、その時々利用者の気持ちに寄り添ったケアが行われており、利用者の穏やかな表情と笑顔につながっています。また、利用者一人ひとりの生活歴の把握に努められており、「できること」「得意なこと」が生活の場面、場面で活かされるよう取り組まれています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ドライブなど、利用者の状況や希望に配慮しながら、声かけが積極的に行われており、外出が利用者の気晴らしや楽しみごとにつながるよう取り組まれています。また、日々の外出の機会に地域のひととの交流を深めるなど、地域の一員であることや地域で生活していることを利用者が感じられるよう取り組まれています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解されているうえ、ホーム周辺の交通量が少ないといった恵まれた環境にあり、日中は鍵かけを行わず、職員が声かけを行いながら、利用者の安全に配慮されています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議を活用し、防災対策についての検討やマニュアルの見直しを行うなど、地域の協力が得られるよう積極的な働きかけが行われています。	○	運営推進会議を活用した取り組みがすすめられていますので、推進会議のメンバーをはじめとする地域のひととの協力関係を大切にしながら、避難場所やマニュアルの点検・確認を行うなど、具体的な支援体制の整備をさらにすすめられることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は水分摂取の必要性を十分理解されており、摂取量の記録を職員間で共有しながら、1日を通して必要な水分が摂取できるよう取り組まれています。また、利用者の嗜好や状態に応じて、メニューや形態を変更するなど、個別の対応も行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関のまわりや庭には、利用者の育てた花が咲いている他、日々の生活ぶりや表情が伝わる写真をツリーに見立てて装飾したり、ロール紙でつくった干支を飾るなど、日々の生活の中で利用者が季節感を感じることができるよう配慮されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者のなじみの家具が持ち込まれている他、家族の写真や手づくりの作品など、本人にとって親しみのある物が飾られており、一人ひとりの個性を尊重しながら、家庭と同じように居心地よく過ごせるよう環境づくりが行われています。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム きららの里

評価年月日 19 年 11月 2 日

記入年月日 19 年 11 月 9 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 リーダー 氏名 中倉 雅子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	事務所、玄関に「経営理念」「社是」「介護目標」「五つの誓い」を訪問者、職員が見えやすいように掲示しています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝礼時に職員が唱和し、一日のスタートを切っており、業務に活かせるよう心がけています。	○	もっと職員1人ひとりの意見を取り入れた理念の再構築を検討しています。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域のサロンの集いなどに参加し、事業所の役割などを話し、理解を得るようにしています。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合い、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	こども110番の場所として提供し、子供たちや近所の方達を行事に招待し、コミュニケーションを図っています。散歩のときは声掛けし会話をするように心がけています		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	夏祭、とんど、運動会など地域の行事に参加している。保育園児や小学校など来ていただき交流を図っています。 事業所の行事に参加を呼びかけています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域のいきいきサロンに出向き、レクリエーションなど指導している。 「きらら会」を発足し、毎週土曜日に地域ごとに来ていただき、レクリエーションをしながら楽しんでいただいています。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価結果を家族、運営推進委員、行政に報告し改善に取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進委員には、事業所の状況、入居者の商況などを報告し、提案、意見などを頂き、業務に活かしています。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所の現状を報告し、町の現状、方針などの情報交換を行っています。また、事業所で抱え込めないと判断したときは保健師、社会福祉士と相談し解決しています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修などで得た知識の勉強会など行い、個々については必要時に話し合いの場を設けています。	○	話し合いの場は設けているものの勉強不足もあり、もう少し知ることによってサービスの幅が広がると思います。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全ての窓、扉の施錠を夜間以外はしない。 ミーティングで虐待について常に話し合いをしています。	○	言葉による虐待など普段慣れた言葉も、いま一度考えるよう振り返りを行い、実践していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結び解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者、家族と面談し、ホーム内を見学していただき、契約内容をきちんと説明し、同意を得ています。	○	ご家族の協力、医療との連携など、経済的に可能であればターミナルも取組んで行きたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	日常のケアの中で話し合い、雰囲気作りをしています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	「きららだより」を毎月発行。 毎月預かり金の状況報告。 個々の様子を写真と手紙によりお知らせをしています。	○	医療的なこと、こまごました対応などについて、しっかり伝えて行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	不平、不満、苦情の受付は施設長が兼任し、業務に反映させています。		朝礼、ミーティングなどで周知し、どう取り組めばよいか話し合い、実践しています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎週月曜日にミーティングを行い、職員の意見や提案を話し合っています。		職員個々の思い、取り組む姿勢を大切にしています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	施設長とパートタイマーで対応しています。		どの時間帯が困難か、どう対応すれば解決するか、その都度話し合いし実践しています。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	退職者以外は出来るだけ最小限にしています。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設長が研修の内容を吟味し、各職員が研修に参加できるよう計画しています。		職員1人ひとりの課題に合った研修を振り分けながら、研修に派遣している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の同業者と交流、地域ケア会議に出席しています。	○	グループホームの交流会を行いたい。その中で学んだことを現場へ活かして行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	月に一度職員とのコミュニケーションを取るため、食事会を開催しています。		定期的にと心がけているが、不規則勤務の中で全員参加が難しい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	時々現場に入り、職員の様子を観察されています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	本人に会い、困っている事、不安に思っている事などを聞き、本人にとって今何が必要なのかを見極める努力をしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族が困っている事、不安に思っておられる内容を良く聴くことで、家族とのコミュニケーションを取っています。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	併設している、居宅支援事業、デイサービス職員と共に本人や家族の相談内容を見極め、医療機関を含めた提案をしています。		居宅やデイサービスの担当者と検討を行い希望に近いサービスの提供を行っています。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ホームの見学や体験入居をしていただき、既存入居者との調整や心のケアを行いつつ、本人と家族が納得されるよう努力しています。		かかりつけ医と家族、本人と話し合いをし、お試して入居をして頂いても大丈夫か確認して行っています。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学び、支えあう関係を築いている	工作や手芸、畑作業など自分で出来ることをしていただき、出来ない部分は職員が陰ながら支え、入居者に達成感を味わってもらい、共に喜べる環境づくりをしています。		分担等、少し押し付け気味になっている部分もあるが、負担にならないよう、職員が間に入り、負担の軽減に努めています。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の心配事や心の不安があるときは、家族さんに訪問していただいたり、電話で相談したりしている。行事に参加していただき入居者と共に楽しんでいただいています。		遠方の方や多忙で訪問できない家族には、電話や手紙などで報告、連絡、相談を行っています。
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	プライベートには立ち入らず、公平な第三者として本人と家族のギャップを解消し相互扶助が成り立つよう支援しています。		本人の希望や家族の意見を総合判断しながら、より良い関係を築くよう努力しています。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔なじみの勤務先や神社、墓参りなどに行き、友人や地域の方と交流が取れるよう支援しています。		本人の思い出を大切にし、電話や訪問をしていただきコミュニケーションが取れるよう支援しています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	認知の差があるため、バランスを取り、出来る事を職員間で調整して支援しています。		旧知の方もおられるので、プライベートは除き、助け合いが行えるよう職員間で調整し、支援しています。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他の施設へ移転された方には訪問しています。	○	定期的に「たより」が送れるようにしたい。

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人が興味を持っている事柄、行動に合わせ話題や作業の提供をしている。訪問された家族さんから本人の希望を聞き対応しています。		意思疎通が困難な方に、もできるだけ興味を示されるものを探し出すようにしています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	過去の家族、本人の生活歴、生活環境の把握に努め、日々の記録や行動から生活リズムを崩さないようにしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日のバイタルチェックや排泄、食事摂取量、一日の生活行動を確認記録し、現状把握に努めています。		日々の会話、行動を細かく観察し、支援に活かしています。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎週ミーティングを開き入居者1人ひとりのケアのあり方について検討し、必要あるときは家族及び関係者と相談し介護計画を作成しています。		本人の希望、職員、家族にズレが発生する場合があるので、出来るだけ聴く範囲を広げ、計画の作成をしています。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	計画期間中であっても出来るだけ細かく計画を分析し、状況に応じて変更、調整、連絡を行っています。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子観に力を入れ、個別記録や気付きノートに記入し、職員に周知し話し合い、ケアに生かして介護計画に取り入れています。	○	周知、話し合ってもなかなか活かしていない現状もある。しっかりと頭においてケアをしていきたい。

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人の希望に出来るだけ副うように、家族と相談しながら柔軟な支援に心がけています。		
----	--	--	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人の希望や意向を、必要に応じて相談しながら支援しています。		家族と常に連携を保ち、生活や金銭面での相談や話し合いの場を持ち、協力しながら支援しています。
----	---	--------------------------------	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じてケアマネージャーやサービス機関、医療機関と相談しながら支援しています。		本人にとってどうすることが一番良いのかを基本に考えてケア、支援をしています。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	困難なケースについて、保健師、社会福祉士と家族を含め話し合っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得されたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居されるまでに、かかりつけ医があれば、関係を大切にして支援しています。		家族と話し合い、事業所の協力医療機関を利用する場合は、かかりつけ医の紹介状をお願いしています。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談し、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	わからない事や不安に思っている事があれば、職員間で話し合い、医師に相談し、受診しています。	○	職員同士で周知、話し合いの場をもっと増やしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	疑問に思ったり、感じたことがあれば、看護職員に相談したり、協力医療機関とも相談しながら支援しています。	○	医療面でも少し充実していきたい。訪問看護を入れるよう考えていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院、早期退院が出来るように医療機関と情報交換しながら、関係者との連携を大切にしています。		日々かわりの中で体調面など変化があった場合、その都度相談し、連携を保っています。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	少しの変化でも見逃さず、家族の意向を聞きながら、連携を取りながら、職員全員でケアの共有をしています。		家族との連携、医療機関との連携を繰り返し、行っています
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ホームでできる事を主治医の指導を受けながら、支援に取り組んでいます。	○	今後入居者の変化に備えて対応できるように、準備を整えておきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	本人のホームでの生活状態、医療機関での受診記録などをもとに十分情報を提供し、住み替えによるダメージ防止に努めています。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーに関わる書類は鍵のかかる書庫に保管しています。	○	職員間の意識を徹底し、私語、言葉使いを正して行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人との会話や行動から、思いを話せるように働きかけ、把握した上で、本人の思いを尊重し、本人が納得し、安心して暮らせるよう支援しています。	○	職員の考えを押し付けるのではなく、かわり、話し合いながら本人第一に考える。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	決まりや都合を押し付けているところがあると思います。	○	入居者1人ひとりの思いを受け入れ、寄り添うケアをしていきたい。 また、寄り添うという事がどういう事なのか職員間でしっかり話して行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	馴染みの理髪店を利用させていただいており、希望によりホームでの出張散髪も行っています。身だしなみやおしゃれも自由に出来るよう支援しています。	○	顔の髭剃りや、時々口紅や化粧の支援をして、喜ばれている。 服装や身だしなみについてのケアも大切だと考えます。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理の下準備、配膳の準備、片付け、食器洗いなど職員と一緒にしています。		入居者と育てた野菜なども食卓に並ぶこともあり喜ばれています。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	1人1人の希望を聞いて好みのものが提供できるように、楽しんでいただくよう支援しています。		食事制限、嚥下しやすいもの等配慮しながら提供しています。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	夜間紙パンツ類を使用する方でも日中は布パンツを使用いただき、1人ひとりの排泄パターンを把握し失禁のないようケアし習慣となるよう支援しています。		失敗したり、不安だからと紙パンツ類を使用される方がいる。水分量、体調に合わせた食事の提供に支援しています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望された時、その時の状況を確認し入浴して頂いています。皆さんが回数やペースに合わせてほしい思いはある。前日の入浴パターンを観て支援しています。		入浴は気持ちが良いと「何時でも入りたい」と思っただけよう支援します。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間寂しさの強い方には、職員が見えるところにいて安心して過し頂くよう支援しています。 定期巡室し、希望に合わせて室温、照明を調節しています。	○	バタバタしていて、休まれるまでに声かけ出来ないときがある。思いをしっかり把握して、安心感を得てもらえるよう支援します。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	笑っていられる時間を少しでも多く提供できるよう支援している。1人ひとりに合った、楽しいと思える時間の支援をしています。		寂しそうにしている時はすぐに話し相手になり、職員と2人で居りたいと言う方には畑仕事、ドライブで2人の時間を作っています。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持し使えるように支援している。	金銭の管理は職員が行っており、買いたいものがあるときは職員が同行し確認の上、購入しています。		お金の管理が自立で出来る方は、共に付き添い自分で選んで買っていただいています。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望に副って、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、ドライブなどしてその日の様子を見て声かけをし、屋外に出ただけのよう心がけています。		日常的には、散歩をしながら地域に触れる機会を増やしていきます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	日帰り旅行や、季節にあった場所を選び実施している。家族の方と水いらず外出したりしています。		家族の方との時間を少しでも増えるように思い対応しています。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をし、手紙のやり取りができるように支援をしている。	我が家への不安、家族への寂しさなど訴え、思いをくみ取り、電話して頂いています。	○	手紙のやり取りが出来るよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問でき、入居者と過せるよう対応しています。		訪問時に日々の暮らしの様子がわかるよう写真を貼り、アルバムを作成しています。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	居室やホームから自由に出入りできるよう対応しています。ホーム外に出るときは転倒などないように見守り付き添っています。		敷地内で草取り、植木への水やり、畑仕事など入居者が自由にやれるよう支援しています。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は全て鍵をかけないでいます。		外に出たいと思いのあるときは、声かけしていつもの散歩コースを歩いています。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜を通して入居者の所在や体調変化の確認をしており、夜間も定期的に巡室し様子を確認しています。	○	廊下周りに監視カメラを設置し所在の把握をしています。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状態に応じて、注意の必要なものを使用するときは、職員が付き添って安全確認をしています。	○	他の入居者の部屋に入る入居者がおり、他人に知られたくないことが伝わることもあるので、心して対応していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	誤飲、誤嚥されないように手の届かない場所に保管しています。出歩く人には常に付き添って支援しています。		研修などで学んだことが活かされていないときがあるので、徹底していきたい。
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	応急手当、初期対応の知識はあっても訓練をしていないので行う必要があると思います。	○	AED使用など、急変のときの救命講習を定期的に行う必要があると思います。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害対策のマニュアルはあるが訓練の回数が少ないと思います。	○	地域の方々の協力を得る体制を作る必要があると思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	日常生活など細かく家族の方と連絡を取り合い、その人らしい生活を送っていただけるよう対応をしている。		入居するまでの経緯をしっかりと把握し、家族の思いを聞き入れています。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々健診や行動を見極め、変化があったときは速やかに周知徹底している。	○	職員が、変化に気付くのが遅れる場合があります、早く気付くよう心して対応したいと思う。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	目的や作用をしっかりと把握しておき、変化に対応し、職員への周知を徹底している。		使用方法や副作用など十分理解して対応しています。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分摂取(1300cc)の確保や運動、朝の牛乳、バナナなどで自然排便に心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後行っている。	○	抵抗のある方への毎食後がなかなか大変であるが、きちんと口腔ケアの理解し対応していきます。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べられる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の水分量を記録し、半日ごとに集計し、少ない方には摂取していただくようにしています。 食事内容も体調に応じてメニューの変更、ゼリー状などにして摂取の支援をしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いの実施、手袋の着用、マスクの使用、消毒剤を使用し、感染症の予防に努めています。 勉強会を開き基礎的な知識を学習しています。	○	ノロウイルス、白せん病、食中毒の勉強会はしているがインフルエンザの知識も学習したいと思います。 インフルエンザ予防接種は全員受診しています。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具等は漂白、熱湯、熱風消毒して管理しています。 食材は必要食材をその都度購入し、冷凍冷蔵庫に保管しています。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りには植木や草花もあり、門も開放しており安心して出入りが出来るようにしています。 裏庭にはデッキがあり設け池を眺めるようにしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁面やホールに行事や日常の生活ぶりの写真を張り、季節ごとに入居者と共に作成した飾りをしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになられたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル椅子、畳の間、ソファなど思い思いの居場所を提供しています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者と家族が相談されて、使い慣れたものを配置されています。 家族さんの写真を貼り、自分で作られた作品を飾り、思い思いに工夫されています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	トイレは24時間喚起を設置し、各居室、ホールには空調機を設置、床暖房を設置、床には自然換気されるよう工夫し、におい、温度調整をおこなっています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は全てバリアフリーで廊下、トイレには手すりを設け、自立した生活が送れるよう工夫しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの力を出せるよう、習字、ぬりえ、折り紙、計算ドリル、ゲームなどをしながら工夫しています。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しめるよう、活動できるように活かしている	畑作業の好きな人には野菜作りをしていただき、花作り、デッキから鯉に餌をやるなど少しでも楽しめるよう工夫しています。		